



社会福祉法人愛知いのちの電話協会

名古屋いのちの電話

<http://www.nagoya-inochi.jp/>

特別寄稿

いのちへのまなざし

金城学院 学院長
 淀川キリスト教病院 理事長 柏木哲夫



<生命といのち>

還暦を過ぎてから言葉へのこだわりが出てきた。そのことによって考えが広がったり洞察が深まったりする。そののひとつとして「生命」と「いのち」は違うと思いはじめた。連想法で比べると本質の違いが見えてくる。

「生命」には生命保険とか生命維持装置という言葉があり、「いのち」には、君こそ我がいのち、いのちの泉という言葉があるように「生命」は有限であり、「いのち」は無限であるといえるのではないかと思う。

尊敬する阪大の中川米造医師は、亡くなる少し前に素晴らしい言葉を残された。生命といのちとを分けて「私の生命はもうすぐ終焉を迎える。しかし私のいのち、すなわち私がこの世に存在した意味、私の大切にしてきた価値観は永遠に生き続ける。だから私は死が怖くない」と。そして学生たちへの遺言として、「今までの医学は生命は診てきたがいのちは診てこなかった。これからの医学は生命と同時にいのちをも診ていく必要がある」と言われた。

もう一つの例はJALの研修担当者からの機内での実話。障害を持った息子さんを40歳で急に亡くされたご両親が、哀しみを乗り越え息子さんの写真も含めた三人で空の旅をした折「左の窓に富士山がきれいに見えます」との機内アナウンスに、お母さんは写真を窓際に寄せてよく見えるようにした。ワゴンサービスで両親がジュースを頼んだ時、客室乗務員は窓際の写真に気づき、「窓ぎわの方にもおひとつどうぞ」とジュースをもうひとつ差しだした。すばらしい感性である。感性には「気づき」「感動」「行動」の三要素がある。亡くされたお子さんと一緒に旅だと気づき感動しても、「窓ぎわの方にもおひとつどうぞ」への行動が伴わなければ感性は完成しない。

<生きる力と生きていく力>

ホスピスで患者さんが、「もう生きる力」がないと言う時はいのちの終焉に近い生命のことをさし、精神科の外来で「生きていく力」がないと言うのは生きる意味がないということ。これはいのちの問題であり、魂の問題である。

聖書の創世記に人間の創造の記事がある。「いのちの息を吹き込まれた。人はこうして生きる者となった」とある。いのちの息とは魂のこと。魂は人間だけに与えられている。動物に魂があるとは考えられない。人間と動物の違いを示す要素は三つあり、宗教・自殺・音楽（芸術活動）だと考える。これらはすべて魂が関係する。宗教は魂が悟り、存在の意味を教え、自殺は魂が病んで存在の意味を失うこと、そして音楽は魂に響き、存在の意味を感じさせる。

<自殺の背景について>

自殺が成立する要素に三つある。一つは自分の手に負えない体験（経済的困窮・失恋・病気等）をしていること。二つ目は、その体験が一時的なものでなくずっと続くと思っているので辛さを強く感じ、自分を消し去る以外に道がないと感じていること。三つ目はこの思いに歯止めがかからないことである。

歯止めには二つあり、家族、医者、治療者など人との繋がりによる外的歯止めと、その人の人生観、宗教観などその人の内部にある考え方による内的歯止めである。どこかで歯止めがかかった時に自殺は防げるはずである。

今日本はかなりの数の自殺者があり、自殺の原因はさまざまだが、私自身の臨床の体験からうつ病の発症が大きな原因のひとつではないか、心の病が魂の病にまで広がり自殺に至っているのではないかと思っている。

どういう状態になれば自殺ということから解放されるようになるか、それは生きていく意味を感じられるようになることである。ここで支える、寄りそうということが必要になってくる。

<支えること、寄りそうこと>

私の言葉へのこだわりから言うと支えると寄りそうは違う意味を持つと思う。阪神大震災の少しあと避難していた人が高血圧の薬を無くした。薬の名前も分からず動転している。これは支えないと大変なことになる。こういう患者を診察するときは技術力と同時に人間力が必要。親身に対応するあたかさもって支えることが必要で、これを下(した)支えという。支えないと下に落ちてしまう。そして支えるためには技術力・専門性が必要になる。自分にはない技術力を持ち、連携してくれる人を確保することが非常に大切で、精神科の医師との連携が必要であろう。

これに対し寄りそいは横からのもの。閉眼片足立ちの場合横から少し触れてもらうだけで立っている時間が延びるが、これは物理的なようで精神的な安心感によるものが大きい。寄りそい人に技術は要らない。人間力が必要なのである。信用しての行為が寄りそいで、寄りそうことでその人は何とか前へ進める。

人間力の要素は、一番目は受け入れる力。そのまま丸ごと受け入れることである。二番目は共に感じる力。そういう感性が自分にあるか、に関わってくる。三番目は理解する力。人間を理解することで、これには専門性も必要であるし経験も必要になる。

ホスピスはその人らしい人生を全うするのを援助するところである。さまざまな不幸の中を過ごし、がんの手術をした人がいた。人間不信で誰も自分の中に入れようとしないう。自分が心を開けば必ずつらい事が蘇る。自分を保つために壁を作る以外になかった。心を込めてケアすることで信頼関係ができ、交わりのうちに死んでいくことが出来るかもしれない。しかしこの人は壁を崩さないまま亡くなった。人は生きてきたように死んでいく。だから壁を崩すことはその人らしさを奪うことになるのでは、と思う。

四番目は踏み込む力。受け身の踏み込みが必要である。踏み込んで初めて下支えが出来る。受け身の踏み込みは信頼関係がなければ効果を表せない。

<魂の平安>

「差し出す」「支える」「寄りそう」、ここまでは人間が出来る。最後は「背負う」こと。人間では出来ないが、背負って下さる方の存在を紹介することは出来る。

あるシスターが遺族のグリーフケアに携わった。津波のとき5歳の娘の手をとって歩いていたお母さんは、水が上がってきて娘を抱きかかえた。どんどん水が増え、水が自分の首に近くなったが自分の頭より子の頭が低いのに気づかず、避難先まで行きついた時には娘は息絶えていた。自分が殺してしまった。役に立たなかったこの手を切り落としてくださいと絶叫した。この叫びは心の叫びを超えた魂の叫びである。シスターは支え、寄りそって、無理をせず少しずつ神様を紹介した。「娘さんはあなたの代わりに神様がしっかりと背負ってくださっていると信じます」と。時間をかけてこれが母親の心に浸透していった。

人は最後の場面だからだと心、魂が良い状態であることが必要。からだの安全、心の安心、そして魂の平安が求められる。末期は魂がむき出しになる時である。元気な時は衣を着ているが末期になると衣は全部剥げ落ち、最終的に魂がむき出しになる。そこに平安があるかどうかである。

最後にホスピスでの二人の話をした。

社会で活躍をしてきた72歳男性。膵臓がん末期の人でからだの痛みは取れたが、死の恐怖、不安にさいなまれ、全ての衣が剥げ落ち、むき出しの魂に平安が無かった。

同じ72歳の女性。信仰を持った人で痛みがひどくレントゲンを撮ると肺が真っ白。モルヒネで痛みは楽になり、「先生、私先に行ってますから先生も来てくださいね」と言われた。最後は娘さんに「行ってくるね」。娘さんは「行ってらっしゃい」。

この二例でふたつのことを見せていただいた。前者の男性は富も名誉もあって安心しておられた。安心は横からくる。横から来たものは力がない。後者は永遠のいのちを確信しておられた。再会の確信もあった。すなわち魂の平安である。魂の平安があるかないかが大きい差を生む。平安は上から縦に来るもので、勝負を決める一番大切なものなのである。

第31回いのちの電話相談員全国研修会おおさか大会

テーマ わすれてへんで、あんたのこと ～みんな誰かの大切な人～

2013年10月25日(金)～27日(日)、大阪国際交流センターで全国研修会が開催されました。台風接近によりあおもりセンターが不参加でしたが、全国から約860名の仲間が集い我がセンターからも15名が参加しました。

1日目は、大ホールでのオープニングと鷺田清一大谷大学教授の基調講演。最後まで聴くことの大切さをお話していただきました。2日目は、15の分科会と9のワークショップ。各自選択した分科会に参加しました。3日目はトークセッションで、湯浅誠(社会運動家)・香山リカ(精神科医)・オキタリュウイチ(「生きテク」代表)の3氏から電話相談とは異なる自殺予防活動についてお話を伺うことができ、視野を広げることができました。

分科会

聴くことの大切さ

～日雇い労働者と出会って34年～

講師 入佐明美 (ボランティアケースワーカー)

釜ヶ崎で人間関係を作るには、今までやってきたことが通用しない。何度か喪失感に取り付かれ、自分に絶望した。そんな時、労働者の方が「声をかけてくれるだけで充分や」と返してくれた。アルコールを止めさせなければ、元気にしなければと思う自分の傲慢さに気付いてからは、気持ちが楽になり関わりがスムーズになった。本音でいい、弱さでいい。自分の持っているものをお互いが差し出す。自己受容と他者受容と。物静かに話される入佐さんに深い熱い眼差しと強さを感じた。

(M・I)

ワークショップ

昔話から学ぶ心の成長

～ロールプレイで気づきを深めましょう～

講師 後藤智子 (梅花女子大学教授)

午前中は、人の心は受けてもらう相手を得ることで、本人も思わぬ力を発揮すると言う内容でした。「人は二番目に言いたいことしかいえない、一番いいことが言えないもどかしさに耐えかねて」(星野富弘さん)「人を理解するのは、2トンの塩を舐めるようなもの」(須賀敦子さん)の言葉を引用されながら、電話相談における利用者の物語を聴くことについてお話された。午後は、



なじみの昔話を題材に登場人物の様々な人生、置かれた状況や心情の変化について、自由に想像を膨らませ、ロールプレイングを通して傾聴の体験を深めました。楽しい中にも、傾聴の在り方を深く学ぶことができました。(M・S)

ワークショップ

相談員と考える「持続可能ないのちの電話」

講師 長尾文雄 (関西いのちの電話)

「いのちの電話の強み弱みは」「いのちの電話の活動を短い文章で言うと」などの問いに、自分の考えを付箋に書きB紙に貼る。自分の考えをまとめられるだけでなく、他人の考えも知ることができた。「いのちの電話の活動を一本の樹とすると」では皆と協力して樹を描いた。多くのグループで根元から若い枝が描かれていた。新しい仲間を求めていることが伝わってきた。孤独、孤立のない社会の実現に向けて、いのちの電話の活動を「誇りを持って継承していこう」の講師の方の呼びかけは皆に伝わったのではないのでしょうか。

(M・I)

2013年1月～12月受信状況ご報告

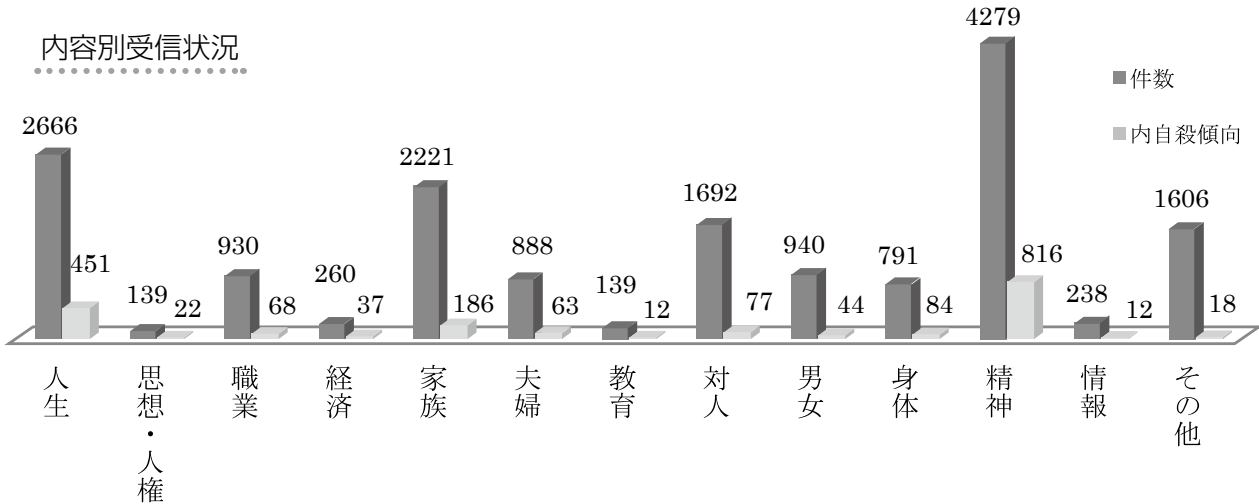
総受信件数 17,970 件

(通常ダイヤル・自殺予防ダイヤル・震災ダイヤルを含む)

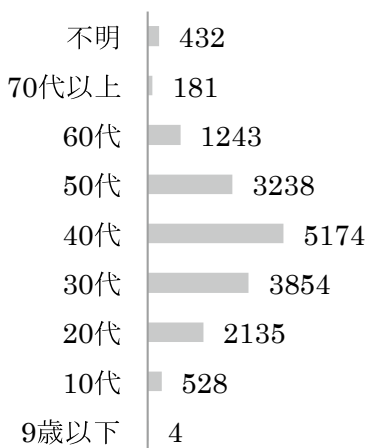
通常ダイヤル

受信件数 16,789 件 (男性 7,619 件 女性 9,170 件)

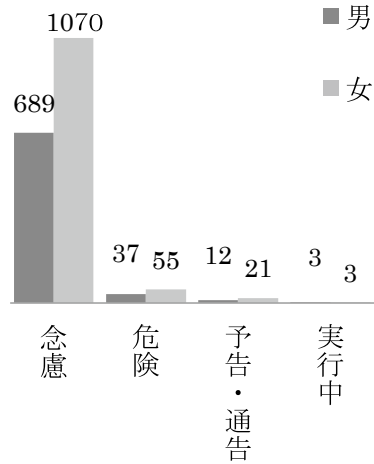
内容別受信状況



年齢別受信状況

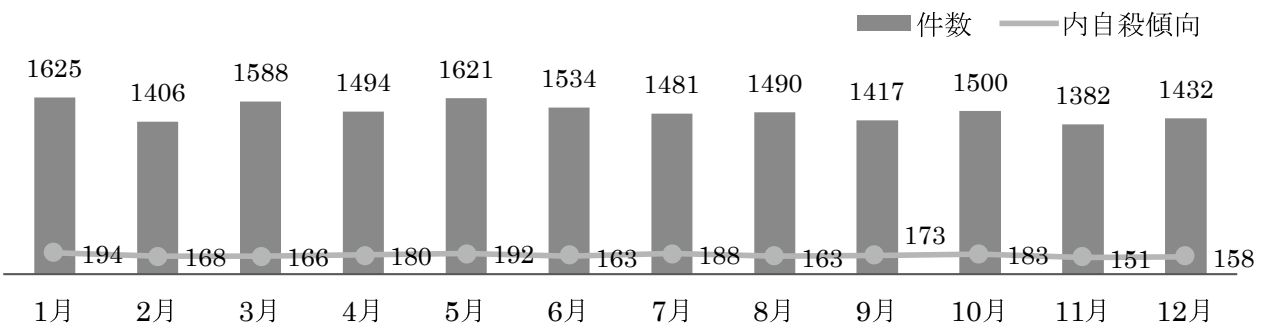


男女別受信状況



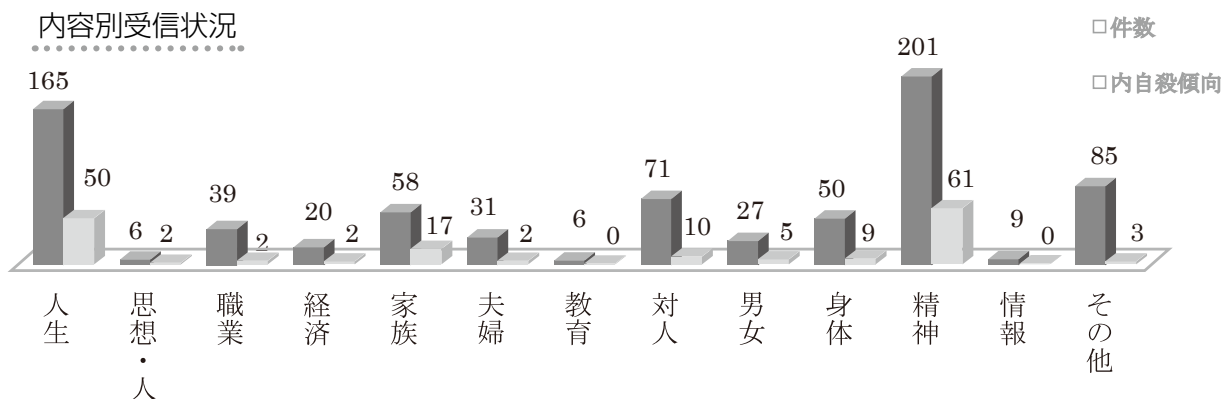
通常ダイヤルの内容は近年「精神」が「人生」を上回り、うつ等の精神の病からの生きづらさを語る電話が多く、年代別利用状況は40代30代が全体の54%を占めています。
内自殺傾向は11.3%です。

月別受信状況

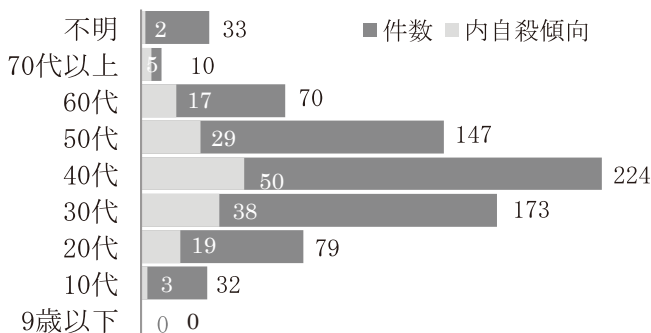


自殺予防 (毎月10日フリーダイヤル)

受信件数 768件 (男性423件 女性345件)



年齢別受信状況



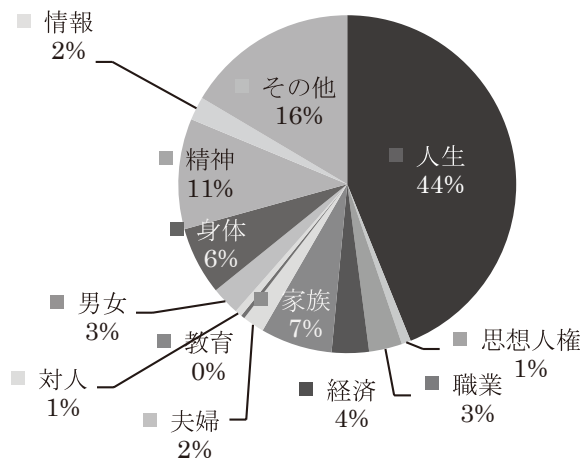
全国のいのちの電話で対応しているフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」(毎月10日朝8時~翌日朝8時まで)は通常ダイヤルよりもつながりにくく、自殺傾向のある電話は、21.2%でした。

相談員は1本でも多くの電話に対応しようと取り組んでいます。

震災ダイヤル 2011年3月~2013年9月終了(体制整備のための休止期間も含む)

日本いのちの電話震災ダイヤル 総受信件数 41,445件 (男性 22,609件 女性 18,836件)

内容別受信状況 (2012年・2013年全国分)



東日本大震災直後から被災地4県対象にフリーダイヤルで行われました。

40代 50代 30代の利用が多く、人生(孤独・生きがい・死別・災害)・健康問題(精神の病等)・経済/職業(生活苦・失業)などの相談が寄せられました。

名古屋いのちの電話は全国のセンターと協力して約900件の電話に対応いたしました。

(2013年度は413件でした。)

*被災地での苦労が続いている中で、「震災ダイヤル」の活動を終えることには苦痛と無念さがあります。被災地の方々と希望を共に抱きながら、私たちの日々の活動に戻りたいと思います。

退任にあたり

定年退職者をお送りする季節がやってきました。これまでのご活躍に感謝すると共に、皆様のいのちの電話への想いを引き継ぐことの大切さに気付かされました。退任にあたり、寄稿文を掲載させていただきます。

感謝!

相談員 A・K

世の中の縁の下の力持ちといおうか、Rさんをひっそりと支えている多くの相談員、そんなすばらしい仲間とここでめぐり会え、来る度に元気をもらって帰りました。病気でもう続けられないかな、と思った時にも「もう、そろそろ出てこない。」と声を掛けて下さり、定年迄、続けられた事も大きな喜びです。川柳が人を詠むことを知って学び、歩く事で四季折々の変化を感じ、小さな変化に気づく感性を育てることを心掛けてきました。周りの人達の人に対する優しさの発見もしばしば、うれしい限りです。まずは近くから生き易い世になればと願っています。これからもここで学んだことを生かして、隣り合わせた人達と小さな温もりなど、分かち合えていけたらと思っています。この施設の存在自体に、感謝です。十数年間、家族の理解のもと、市外へと出掛けることが出来たこと、ストレス解消にもなりました。ありがとうございました。こころよりお礼申し上げます。

感謝

相談員 N・O

60代の始め、新聞で「いのちの電話」相談員不足と言う記事を読み、始めて「いのちの電話」の存在を知りました。勇気を出して仲間に入れていただき、新鮮な気持ちで受けた養成講座が昨日のように思い出されます。利用者さんから怒られたこと、教えられたこと、お礼を言われたこと、どんな時も真剣に考え、受容し、共感できるように心掛けてきました。「いのちの電話」に関わらせていただき、日頃の生活の中でも常に「感謝」の気持ちを持つことができるようになりました。とても充実した60代でした。事務局の皆さん、相談員の皆様、本当にありがとうございました。

今、思うこと

相談員 K・K

電話室の受話器の前に座ると、私はいつも祈ります。「自殺します」という緊急電話がかかりませんように…。自殺予防の相談電話員としてとても矛盾していますが、電話を取るたびに緊張します。そして当番が終わるとホッとします。とりあえず短い時間だけでも強

い自殺企図を持つ方がいなかったという事だからです。それなのになぜ29年間も相談員として活動できたのかということ、最近よく考えます。一番大きなことは、人とつながっているという実感をととても強く感じられるという事でしょうか。利用者との一期一会のつながり、講師の先生方とのつながり、そして相談員同士のつながり。それこそが私が長く相談活動を続けられた礎と言えます。そのつながりの大切さは、私の人生にとってとても貴重な宝物になりました。この活動の中で学んだ大切なことを、次の私の活動に生かしていきたいと思っています。長い間本当にありがとうございました。

仲間に支えられて

相談員 K・W

「お先に失礼します 久々にお会いできて嬉しかったです お気を付けてお帰りくださいね」ある日 電話を取り始めた私の脇にそっと置かれたメッセージです。この日私は思いもかけない出来事があり、心がひどく動揺、安全の為に車の運転も避けて来ました。物事が手につかない状況のまま一人きりシフトに入ったのですがこの状態ではいい対応ができない何とかせねばといつもになく気持ちの切り替えに苦しんでいました。「気分が万全でない自分を意識して対応」とはいえ難しいものです。しかしそのメッセージを見た時スーッとギアチェンジ出来たのです。短い文の中の沢山の優しさと信頼の言葉がまるで私の血管をさらさらにしていくように感じました。気持ちが落ち着き電話の向こうの方にゆったりとして向き合えたことはいまでもありません。一人ではない、仲間に支えられて聴くことが出来ることなど、沢山宝物を頂きました。有難うございました。(K・W)

定年を迎えて

相談員 S・K

50歳を迎えた頃でした。母親、妻、嫁という居場所から少し異なる位置に身を置いてみようと考えました。世の中に疎かった私は一生懸命模索しました。そして覚悟と志を載せた相談員という電車に乗りました。その電車では、悲鳴をあげて苦しむ人、罵声で鬱憤を晴らす人、だんまりで自己表現をする人、等等、多く

の重荷を背負った人達と乗り合わせました。私も青色吐息の繰り返しでした。この電車はこれからも、ずっと停車する事はなく走り続けるでしょう。けれども私はガタゴト大揺れしながら、またノロノロと走りながらも、諸先生のご教示を受け、仲間と共に学び、支えられて、終点に着きました。いのちの電話相談室の経験は私の壮年期に少なからず意義のある時間をもたらしました。

古希を迎え、これから年を重ねていく日々の中で、その経験から学んだ柔和な心と謙虚な姿勢を忘れないように心掛けたいものです。そして些細な出来事にもワクワクする喜びを覚え穏やかに人生を過ごすことができたらと願っております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りしますと共に相談室に心より感謝申し上げます。

ご援助ありがとうございます

2013年10月1日より2013年12月31日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に報告を申し上げます。(順不同・敬称略)なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 小山 勇/財務委員会

賛助会員 A

大島恭子 出口美津江 森宣子 水谷宣美 前田豊子 宮之原弘 今野良彦 堤肇 加藤明宏 下村徹嗣 梨本將代

賛助会員 B

山本幸江 森岡諭 河野和子 河村公子 黒田忠嘉 野田正文 豊島徳三 山口和子 加藤幸雄 大橋玲子 後藤進 小栗夏江 杉山志乃 高橋青子 鳥居平和 菅原美智子 寺田仁計 鼓美千代

賛助会員 C

水谷敦子 中出智恵子 鈴木久野 井上靖一郎 小出芳典 谷川日女子 井上美千代 石河孝栄 菊池幸子 尾関稔河田いさを 樋口次雄 浅野喜代子 鬼頭洋子 湯瀬美知子 福田忠徳 粟田昌子 小栗夏江 斎藤喜世子 早川定子 飯塚重五郎 井代佳明

法人会員

宗教法人宝泉寺 宗教法人法蔵寺 専念寺 宗教法人建中寺 大成(株) 松岡特殊鋼株式会社 名古屋トヨペット(株)(福) 中部善意銀行 株式会社サンゲツ 東海東京証券(株) 敷島製パン株式会社 興禅寺 天野エンザイム(株) 株式会社杉浦製作所 アサダ(株) 杉山工業(株) 新明工業(株) 公益社団法人名古屋中村法人会 中央精機(株) 武田機工(株) タキヒョー株式会社 矢作建設工業株式会社 豊田通商(株) (株)フジトランスコーポレーション(株) 大竹製作所(株) 三清社(株) 高木製作所 ユニグループ・ホールディングス(株) 東海通信資材サービス 東朋テクノロジー(株) テンプスタッフ・ピープル株式会社(株) 豊田自動織機 岡谷鋼機(株) 社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団 トヨタ車体(株) アイシン精機(株) 西川コミュニケーションズ(株) 株式会社LIXIL 愛三工業(株) (株)東郷製作所 近江屋

寄付・個人

加藤倫子 秋田あや子 鈴木豊 榎本正子 伊藤美佐子 加藤厚子 鈴木栄子 深谷久美子 永井玲子 関田寛雄 岡部美代子 相馬幸子 鹿島雅世 小枝清子 末本まさ 松岡朱美 伊藤総俊 天野典子 平尾泉 濱下訓子 飯尾啓子 瀬戸口マサ子 野村純一 杉藤はる子 武嶋恵子 小川邦泰 寺西一雄 伊藤恵美子 鈴木のぞみ 野田義行 石川とみ子 望月ちとせ 山下タカ子 中西誓子 亀谷みどり 木本精之助 宮里及子 山口和子 西山えつこ 岡本博子 鰐部和平 鰐部可壽子 山中輝弓 浅野恵美子 岡田ミエコ 清水サトシ ヤギタケシ 江崎好美 坂浦正輝 森川信子 石原容子 梅田恵子 川村弘子 松岡文子 小栗和子 高橋栄一 渡辺直人 鶴野秋信 佐藤弘子 村瀬政子 匿名3名

寄付金・協力団体

在日大韓基督教会名古屋教会女性会 日本キリスト教団鳴海教会婦人会 名古屋学院大学キリスト教センター 名古屋聖マタイ教会 日本キリスト教団半田教会 興禅寺 日本キリスト教団名東教会友愛会計 聖心会修道院 宗教法人カトリック聖マリア在俗会 カトリック平針教会 聖ドミニコ宣教師道女会岡崎修道院 聖心同窓会東海支部

クリスマス募金・歳末募金

武田京子 小出芳典 坂東信吾 梨本將代 石園和枝 岩田邦子 柴川久仁子 河野登喜子 中野悦美 竹内宏子 佐々木広子 鈴木郁雄 加藤みゆき 大橋玲子 鬼頭洋子 中村かつ代 泰良真理子 堤肇 笠井康助 高橋孝子 鼓美千代 谷口明 柴田素伸 伊藤まり子 森川信子 澤村幸子 川上厚成 吉田加代子 白田治子 土屋美恵子 粟田昌子 岡崎強 熱田教会めぐみ会 カトリック半田教会 高橋栄一 日本キリスト教団愛知守山教会 幼き聖マリア修道会 中谷聖子 上田きよ 近藤和子 藤野宏之 相川義治 下村徹嗣 中谷塩子 宮内英夫 塚田道生 中川則子 日本キリスト教団名古屋東教会 日本キリスト教団豊田教会 カトリック日比野教会 下谷定司 平井瑞子 日本キリスト教団豊山教会 松本勝正 ドミニコ会聖ヨゼフ修道院 金城学院メサイヤ演奏会

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円 (2) 賛助会員(年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
(3) 一般募金のご自由な金額で結構です (4) 夏期及び歳末寄付の特別募金

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 口座番号 三菱東京UFJ銀行大津町支店(普) 477029
郵便振替口座 00810-8-53758

声の表情を聴く

養成委員 三 和 啓 二

電話相談では、利用者の顔の表情が見えません。ですから、声の表情が頼りです。それに便乗する位なら電話には閉口しますが、真剣に相談に応じる相談員さんに救われる人はたくさんいます。暗く重い声で電話してきた人の声が明るくなり、お礼を述べられるとき、利用者の心と相談員の心が温まり、晴れ晴れとします。命があればこそ生き直せ、やり直せるのですから。

人は、うつや孤立感、辛過ぎる人生から逃れるには、死をも恐れませんが、ところが、人は親身になってくれる人と出会うと心が生まれます。その芽が育つと、自己実現への一歩が始まります。その瞬間に立ち会えるのが声の表情を聴く電話相談の醍醐味です。利用者が自己実現に向かう時、相談員も充実感を味わいます。この共振れこそ人間らしい営みです。誰か（自分を含む）や何かの役に立てる喜びは、生きる意味そのものです。この生きがいをおなたも味わってみませんか。

事務局だより



事務局には水仙の香りが漂い、一刀彫りのお雛様が飾られています。相談員の方が持ってきてくださったものです。寒さの厳しい日が続きましたが、間もなく訪れる春の気配にほっとする思いです。

経験年数別 1 日研修

今年から行われた経験年数別研修、2月の対象者が1日研修を行いました。

午前中は、西山クリニック高橋蔵人先生による講座「利用者は電話相談に何を求めてかけてこられるのか。私たちはどう応えられるのか」

午後はロールプレイを中心に各自の対応について学びあいました。「同期や他の期の方々との交流ができた。」「初心に戻って新たな学びを得た。」「よりよい相談員を目指そうとのエネルギーが湧いた」などの感想が聞かれました。和気あいあいと研修が進められ、有意義な1日研修となりました。

出前研修会

厚生労働省の補助事業として、いのちの電話出前研修が11月30日に行われました。京都いのちの電話事務局長平田眞貴子さん・栃木いのちの電話研修委員長の大橋さんからのいのちの電話の研修の様子や相談員としての心構えを学び、ワークを通して聴く姿勢などを全体でシェアすることができました。研修の場は自己研鑽の場であることや厳しさの上に身を置くことなどのお話に、相談員として、身の引き締まる思いで研修を受けることができました。

第23期養成講座募集中

関係機関に募集要項が送られ、応募が待たれるところです。多くの方々に「いのちの電話」の活動をご理解いただき、相談員として活躍して下さることを期待しています。締め切り3月31日です。

「チャリティーコンサート2014のお知らせ」

古謝美佐子コンサート

こころのうた いのちへのおもい

日時：2014年11月29日（土）午後4時開演

会場：名古屋能楽堂

チケット代金：3000円

問い合わせ先：愛知いのちの電話協会事務局

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

2014年3月

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号

事務局 ☎ 052-508-8381 FAX052-508-8384

<http://www.nagoya-inochi.jp/> E-Mail info@nagoya-inochi.jp

相談電話 ☎ 052-931-4343 携帯相談電話 NTT ドコモ東海「# 9556」

2014年3月1日発行

発行人 小山 勇

編集人 愛知いのちの電話

協会事務局